

事業者ごみ減量のための 3.17ミーティング



港区3R推進行動会議事務局
株式会社ダイナックス都市環境研究所内 (TEL 03-3580-8284)
港区産業・地域振興支援部清掃リサイクル課 (TEL 03-3450-8273)

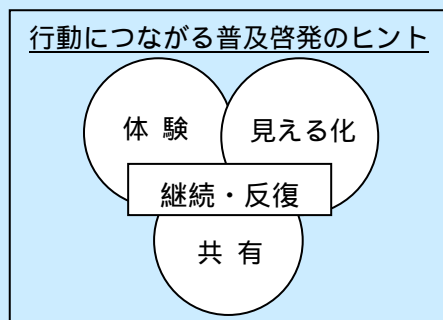
3月17日(火)にエコプラザで開催された3.17ミーティングには、区内事業者16社から20名が参加しました。昼間人口が80万人にもものぼる港区では、排出されるごみのうち約80%が事業系ごみであり、その減量は大きな課題です。事業系ごみ減量に向け、企業内で取り組む担当者を中心に情報共有と意見交換を行いました。

啓発事例の紹介～ストップおんだん館～

講師：ストップおんだん館・小山厚子氏

環境問題解決のために最も重要なのは、人の意識の向上です。環境問題の認知度が高いと言われている日本ですが、実際温暖化防止のために行動している人はあまり多くありません。普及啓発を「行動」につなげるためには、「体験」「見える化」「共有」を「継続・反復」することが重要です。そのための教材を開発し、貸し出しています。ぜひご活用を。

(問合せ・教材貸出しなど)
全国地球温暖化防止活動推進センター
「ストップおんだん館」
2004年7月麻布台にオープン
TEL: 03-5114-1284
メール: event@jccca.org



「くらしをつくる道具たち」
貸し出し用展示
仕事場編

社内のごみ減量・資源化促進の課題点の洗い出し

各社の取り組み事例の中から課題を洗い出すとともに、担当者としての思いや悩みを相互に理解することでグループ討議の基礎作りをしました。

(社内での取り組み)

- 裏紙利用促進で、年間ごみ量が半減した。
- 両面印刷、2ページで1枚の印刷、印刷前のチェックを徹底。
- 「オフィス町内会」に委託し、分別BOXを設置。
- 弁当ガラの破棄には50円の社内税を徴収。

(社内での問題点)

- 紙ごみの割合が圧倒的に多い。
- 取り組みがなかなか続かない。
- やる人、やらない人の差がはっきりしている。
- 社員が住んでいる地域と、会社(港区)の分別方法が違うので間違いが多い。
- 郵便物(特にダイレクトメール)でごみになる物が多い。



課題の解決方法を考える論点別グループワーク

洗い出した課題を論点ごとに分類し、それぞれグループに分かれて討議しました。

グループA「継続できる取り組み・行き詰まりの打開」

(問題点)	(打開策)
<ul style="list-style-type: none"> ● 社員間に温度差がある ● 行き詰まり感がある 	<ul style="list-style-type: none"> ● わかりやすい情報を、繰り返し提供する ● 全員でなくてもできる取り組みを目指してもいい ● 月別、対象別に取り組む ● 「10人中 人が実施！」等と目に見えるように示す
<ul style="list-style-type: none"> ● リサイクル量が増えれば、コスト削減になるのか? ● 仕事時間を削ってまで、ごみ減量に取り組むべきか? 	<ul style="list-style-type: none"> ● プラスチック以外は、リサイクル量が増えればコスト削減ができる体系になっている ● 一気に時間をかけて取り組むのではなく、少しずつ取り組んでみる
<ul style="list-style-type: none"> ● リサイクルを重視するか、リデュースを重視するか? 	<ul style="list-style-type: none"> ● 業態によって異なる ● 担当者も新しい情報を取り入れる必要がある

グループBC「周知・伝え方・しくみ」

(周知事例)

- 入口やトイレに、毎月のごみ排出量を掲示する。
- 点数制を設け、チェックリストに記入する。
- 個人用ごみ箱を廃止。
- 部署ごとにコピー用紙の使用量、コストを公表。
- フロアに1つずつ19分別BOXを置き、2つ以上の分別ミスがあればNG率に換算し公表する。
- テナント事業者に対して廃棄物を品目・事業所ごとに計量し、データを毎月配信している。将来的には重量による課金への移行も考えている。

(目標設定)

- 目標を数値で設定する。
- 外部委託も含め、清掃担当者への教育を徹底する。
- リサイクルの流れを伝える。(コストを含め比較)
- 会社、フロア、個人レベルでの目標を設定する。
- 会社規模では経済面を目標に設定しやすいが、個人目標はどのように立てれば有効か。
- 目標を達成する方法については、「罰則」や「社会貢献」という手段もある。



全体でのフィードバック(まとめ)

最後に、各グループでの議論をまとめ全体でフィードバックを行いました。

これまでも、企業ではごみの分別等の取り組みが行われていましたが、これからはごみの減量や資源化の取り組みが必要です。業種や規模、入居形態(自社ビルまたはテナント)によって効果のある取り組みは異なりますので、本日のグループワークを参考にしてください。

また企業では、ごく少数でのごみ減量やCSRを担っていることが多いようです。ごみ減量や資源化の情報はどんどん新しくなっていますので、区内の事業者間で協力しアイデアや知識、ノウハウを交換、共有することが大切であり、ネットワーク作りも必要です。

港区3R推進行動会議では、今後も事業者のごみ減量・資源化促進のための事業を行いたいと思いますので、引き続きご協力をお願いいたします。